

第2回 宇治市公共下水道事業懇話会

令和7年11月11日

宇治市上下水道部

目次

1. 小委員会からの報告（投資編） ··· P.1～P.7

2. 資料 ①～⑥

これまでの下水道事業について

①管渠（汚水） 整備延長＝558km 整備率＝99.1%

- 下水道施設の予防保全型管理

施設の経過年数だけでなく、被害規模と発生確率からリスク評価を行い、維持管理計画を策定し点検・調査を実施

| | | |
|------|------------------|--------------|
| 点検調査 | 重要な幹線等(約75km) | → 全ての管路で実施済み |
| 実績 | その他的一般管路(約483km) | → 点検調査済 37km |

②東宇治浄化センター（処理場）

- 電気設備・機械設備の改築更新 ※更新頻度が高い
- 水質保全のため処理池を「高級処理」から「高度処理」に改築
- 下水汚泥の再資源化の取組 → 再資源化率75%

③公共下水道（雨水）

- 「宇治市公共下水道（洛南処理区）雨水排除計画」に基づき、貯留施設等の整備を推進 → 浸水解消率の向上を目指す
- 排水機場の計画的な設備更新

下水道事業をとりまく社会情勢

- ・下水管路の破損に伴い、八潮市において道路陥没事故が発生
- ・能登半島地震により、上下水道施設に甚大な被害が発生
- ・気候変動に伴う豪雨による浸水、土砂災害等の自然災害の増加

今後の方針性（案）



<汚水>

- ・施設の老朽化対策の推進と強固な施設の構築
- ・水環境の保全と下水汚泥の再資源化の推進

<雨水>

- ・気候変動の影響を踏まえた治水対策の推進



安心・安全な下水道事業の運営を
将来にわたり継続していく

これからの取組み ①

①管渠（汚水）

● 予防保全型管理の推進

- これまで年間15kmの点検調査を実施。
- 全ての管路の点検調査には長期間を要する → 点検調査の効率化を図り、スピードアップに取組む

災害に強い施設を作り
安心安全な下水道事業を維持

● 下水道管路の耐震化

- 災害に強い施設構築に向けて、「宇治市上下水道耐震化計画」に基づき、管路の耐震化を推進する

● 新規整備

- 未整備地域の整備を進める

| 項目 | 事業内容 | (百万円) | | |
|---------|---|-------|-------|--------|
| | | 当初 | 見直し | 差額 |
| 予防保全型管理 | 点検調査=30km／年 | 事業費 | 3,682 | +1,070 |
| 管路の耐震化 | 急所施設の管路=0.7km ※耐震化率(0%→100%) 重要施設に接続する管路=6km (49%→63%) | | | |
| 新規整備 | 未整備地域の整備=4.8km | | | |

<増額理由>

- 点検調査業務の増加
- 耐震化事業の実施

これからの取組み ②

②東宇治浄化センター（処理場）

汚水処理の根幹となる重要施設
安定した運転の維持

● 予防保全型管理の推進

- 将来にわたり安定した運転を継続するため、計画的に設備更新を進める

● 水環境の保全

- 排水先の河川などの水質保全を図るため、水処理施設の高度処理化工事の完成を目指す

● 下水汚泥の再資源化の推進

- 下水汚泥の有効活用

| 項目 | 事業内容 |
|-----------|-----------------------|
| 予防保全型管理 | 耐用年数等を踏まえ、7施設の改築更新の実施 |
| 水環境の保全 | 5池・6池・7池の高度処理化の完成を目指す |
| 下水汚泥の再資源化 | 下水汚泥の有効活用を検討 |

| | 当初 | 見直し | 差額 |
|------------------------|-------|-------|--------|
| 事業費 | 3,077 | 4,735 | +1,658 |
| <増額理由> | | | |
| ▪ 物価高騰の影響 ▪ 修繕施設の追加 | | | |

これからの取組み ③

③公共下水道（雨水）

● 治水対策の推進

- ・現在、整備中の貯留施設について、早期完成を目指す
- ・新たに、吹前貯留管の整備に着手する
- ・近年の想定を超える気候変動の影響を踏まえた計画への転換を検討する

気候変動の影響を踏まえた
治水対策を推進

● 排水機場の設備更新

- ・改築時期の見直しを行うなど、計画的に設備更新を実施する

| 項目 | 事業内容 |
|-----------|--|
| 治水対策の推進 | 目川・堀池・半白貯留管の早期完成 吹前貯留管の整備に着手 気候変動の影響を踏まえた計画への転換を検討 |
| 排水機場の設備更新 | ポンプ施設等、排水機場設備の改築更新の実施 |

(百万円)

| | 当初 | 見直し | 差額 |
|-----|-------|-------|------|
| 事業費 | 4,104 | 4,422 | +318 |

<増額理由>

- ・物価高騰の影響

これからの取組み～まとめ～

- 令和8年度～令和12年度までの5年間における投資状況

(百万円)

| | 当初 | 見直し | 差額 |
|-----|---------|---------|---------|
| 事業費 | 10, 863 | 13, 909 | +3, 046 |

5年間の投資額
約139億円(約30.5億円の増額)

～ 小委員会の主な意見 ～

➤ 開催日時

第1回 令和7年10月15日

第2回 令和7年11月 6日

| 論 点 | 主な意見 |
|----------|---|
| 投資について | <ul style="list-style-type: none">特に電気機械などの設備関係の価格高騰が顕著であるが、投資計画で示されている施設の点検や改築は、進めて行く必要がある。 |
| | <ul style="list-style-type: none">投資費用が増えていくだけでなく、これまでの工夫や努力で削減した項目なども示す方がよい。 |
| 官民連携について | <ul style="list-style-type: none">技術者不足は全国的に深刻な問題となっているなかで、事業運営や施設改築等も進める必要がある。これらの課題解決策の手法の1つとして、官民連携の導入検討も必要。 |